

嫌な予感はしてたよ
明らかに様子が
変だったもんな。。

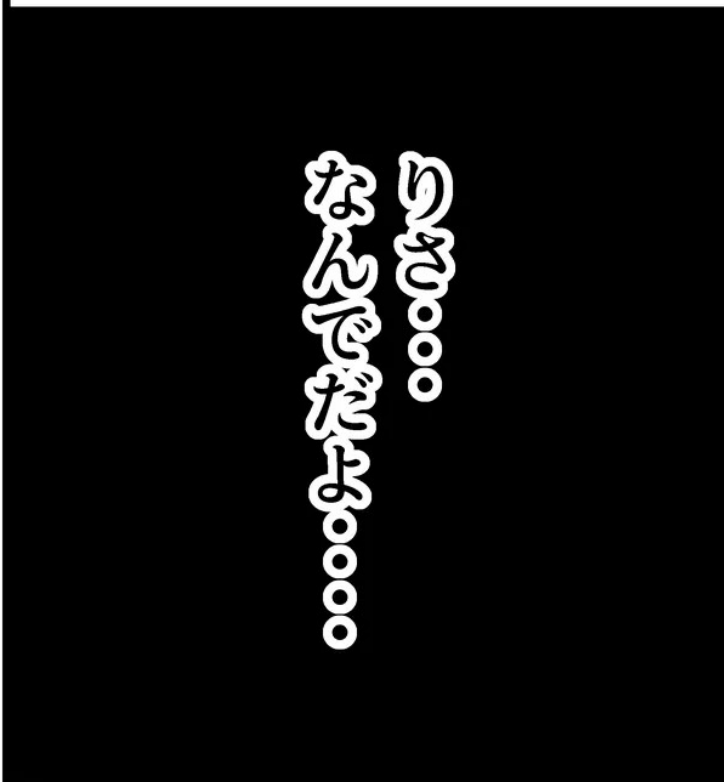
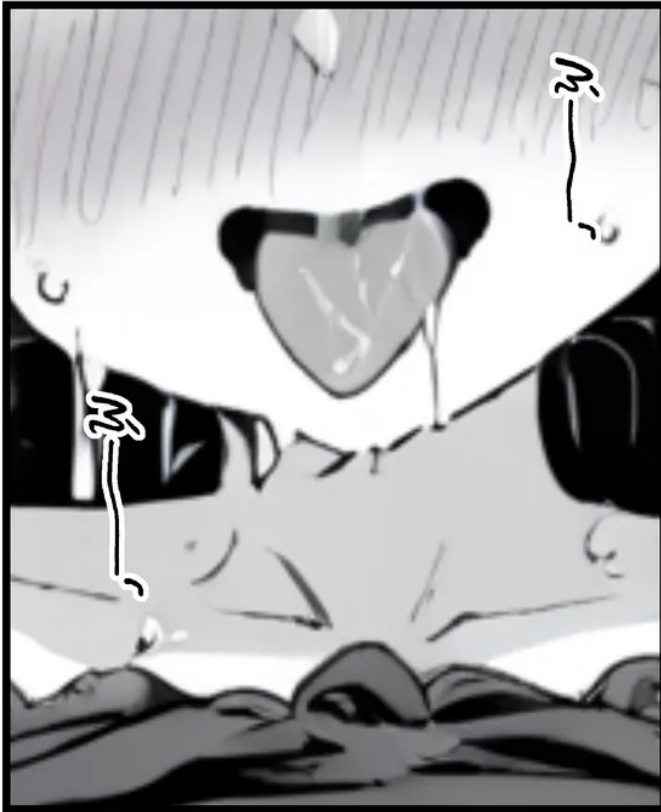
だけど好きだから
信じてたんだぜ？
お前を失いたくなつた

この階段の先に
答えがある

まだ期待してて
いいよな？

きつとこの扉を開けたら
いつもみたいに
真っ直ぐな笑顔で

俺を安心させて
くれるんだろ？





小中高と
ずっと一緒



俺とりさは
幼稚園の頃からの
幼馴染み

結城りさ(4)

遠藤ヒカル(4)



だけど俺は……
ずっと妹みたいだと
思っていたりさを



いつしか
好きになっていた



母親同士が仲いいこともあり
俺たちはまるで兄妹のように
常に一緒に遊んでた





ついに卒業
しちゃったね

本当、あつという間
だったよな...



春からは私もヒカルも
大学生か...早いなあ...



...早く
彼氏作れよ?

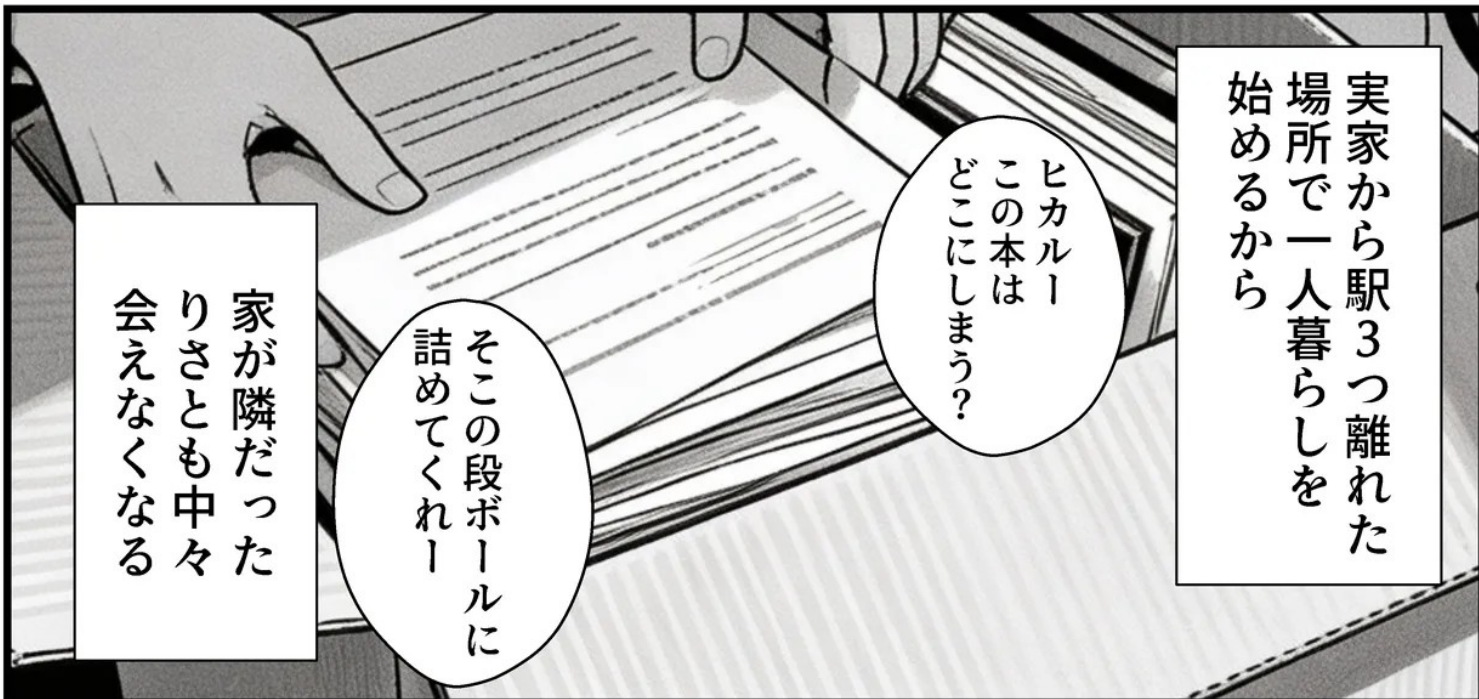
もうっ
うるさい笑

実家から駅3つ離れた
場所で一人暮らしを
始めるから

ヒカルー
この本は
どこにしまう？

その段ボールに
詰めてくれー

家が隣だった
りさとも中々
会えなくなる



ヒカルって
バカなのに
意外と読書家
だよな？

けっ
ほっとけ

みっ
ころしよ



私が恋しくて
すぐに帰って
くるなよ？

お前もすぐ
俺の家に来ちゃうん
じゃねえの？

正直言っ
てめちやくちや
寂しい……



ずっと一緒だった
りさとただの兄妹で
終わりたいくない

おいっ
その少年

何をボーっと
しておる笑

俺はりさの彼氏として
ずっとそばにいたいんだ！







ほ、ホントか!?
ははっ!
マジかよ!!

もう!
ずっと待って
たんだよ!



両想い
だったんだね

実際めちゃくちゃ
舞い上がっていたと
思う



と、いうことは
ずっと……?

この時は
幸せの絶頂
だった



お互い別々の大学に通いながらで忙しかったけど、順調だった

穏やか
だなあ

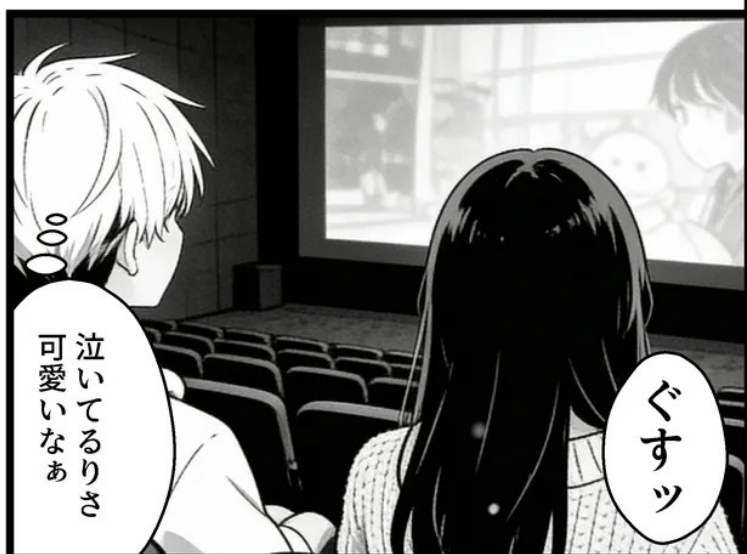
ふふっ
お昼寝したくなっちゃうね

りさと色んな場所に行ったっけ



これって
何て花？

これは
確か…



ぐすッ

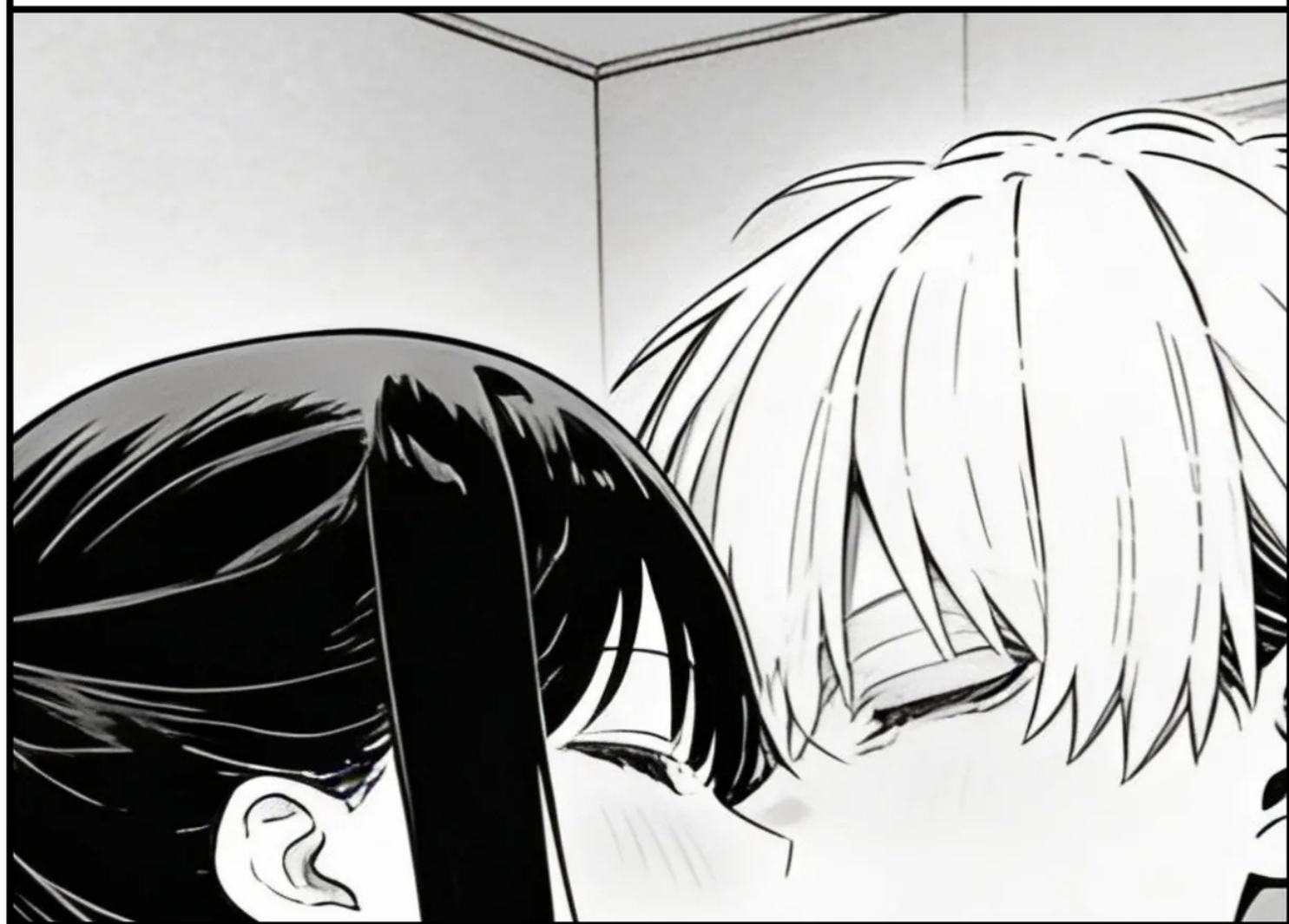
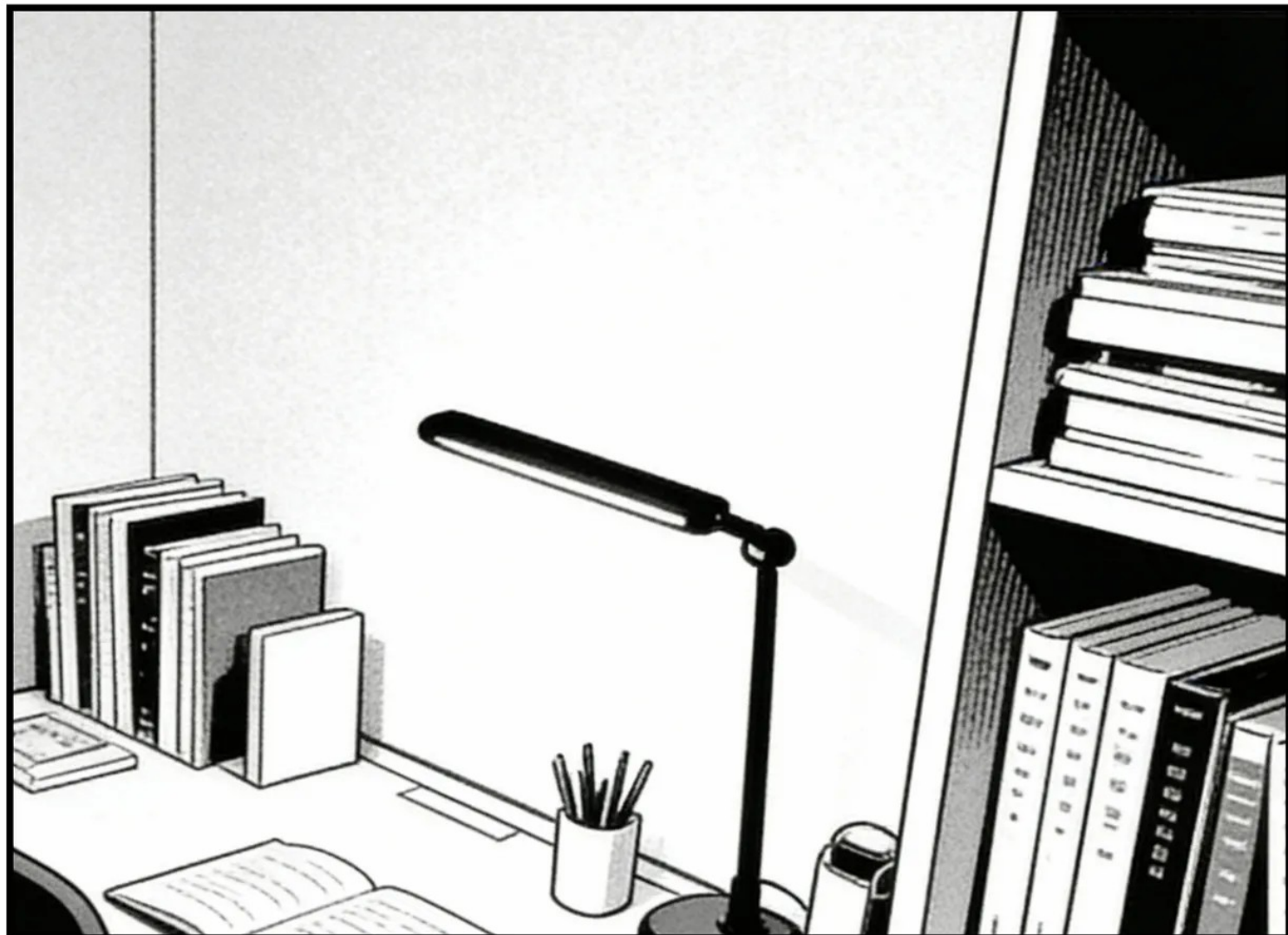
泣いてるりさ
可愛いなあ



楽しすぎて
あつという間の
一年だったよ

凄い上手に
出来た♡

…上手すぎ
だろ笑



そして
俺たちは結ばれた



学校生活も
恋愛も
すべてが順調だった

だけど、大学2年生に
なったタイミングで
同時にりさの様子が
少しずつ変になっていた



既読
19:00

おつかれ。今日、学校どう
だった？



りさ

あ、うん。普通だったよ。

19:56

最近ずっと返信遅いけど、
大丈夫？
なんかあった
？

既読
19:59



りさ

ごめん、ちょっと色々あっ
て。

20:20

色々って？前までみたいに
話してくれなくなったから
、心配してる。

既読
21:25



りさ

うーん…大したことじゃな
いよ。

21:40

いよ。

21:40

俺には言えないこと？
なんか、避けられてる感じがする。

既読
21:43



りさ

そんなことはないよ。

21:44

じゃあ最近何してるの？
夜に連絡つかない日多いけど。

既読
21:45



りさ

ちょっと外出してただけ。

21:46

既読
21:47

誰と？



りさ

友達だよ。

21:48

前は全部普通に話してくれてたのに、最近は隠すようになったよね。
疲れてるだけならいいけど…

もしかして、俺に言いづらいこと？

既読
21:51



りさ

……ごめん。
ちょっと
考える時間ほしいかも。

21:59

考えるって何を？
俺たち
のこと？

既読
22:00



りさ

うん…。

22:01

最近の態度でなんとなく気づいてたけど…
誰かい
るの？

既読
22:02

づいてたけど…
誰かい
るの？

既読
22:02



りさ

違うよ。
ただ…ちよっ
と距離置きたくて。

22:05

距離置きたい理由は？

既読
22:07

はっきり言ってほしい。



りさ

……今はまだ言えない。

22:10

言えない理由があるってこ
とは、
俺じゃない誰か
関係してるの？

既読
22:12





こんなよそよそしい
りさ初めてだ……



なにか
変だ……



どうしちゃった
んだよね……



りゅ……

不安で押し潰され
そうだった……



りさ。。。
今どこで誰と
何をしてるんだよ。。。。



よし
啜えていいぞ

はー♡

はー♡



はー♡

はー♡

×××さん
もういい？



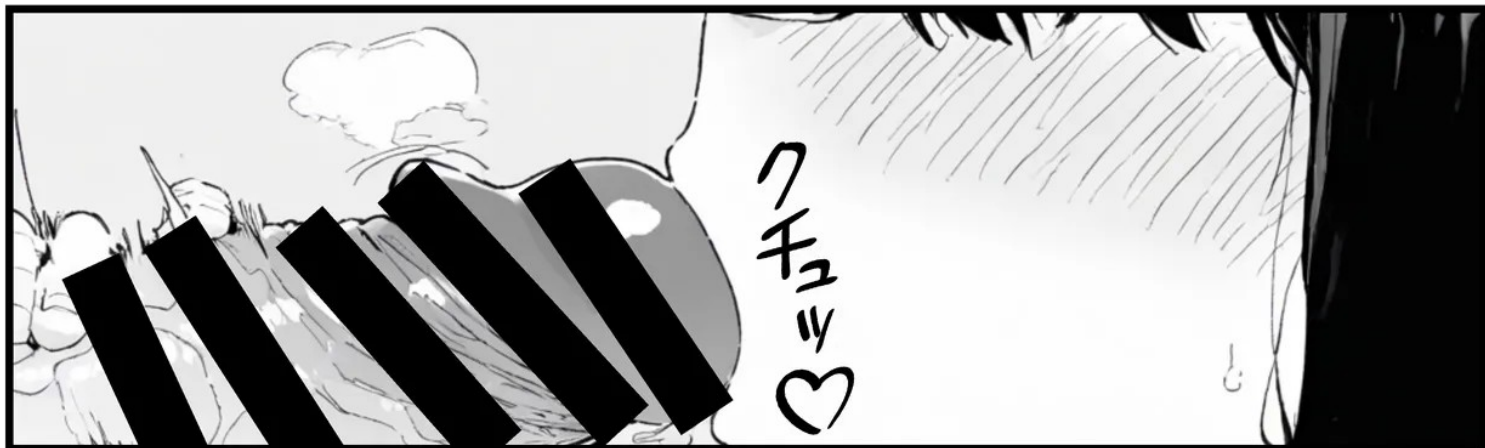
ああ・・・♡
凄い男の臭い♡

まずは亀頭を
舌で刺激して



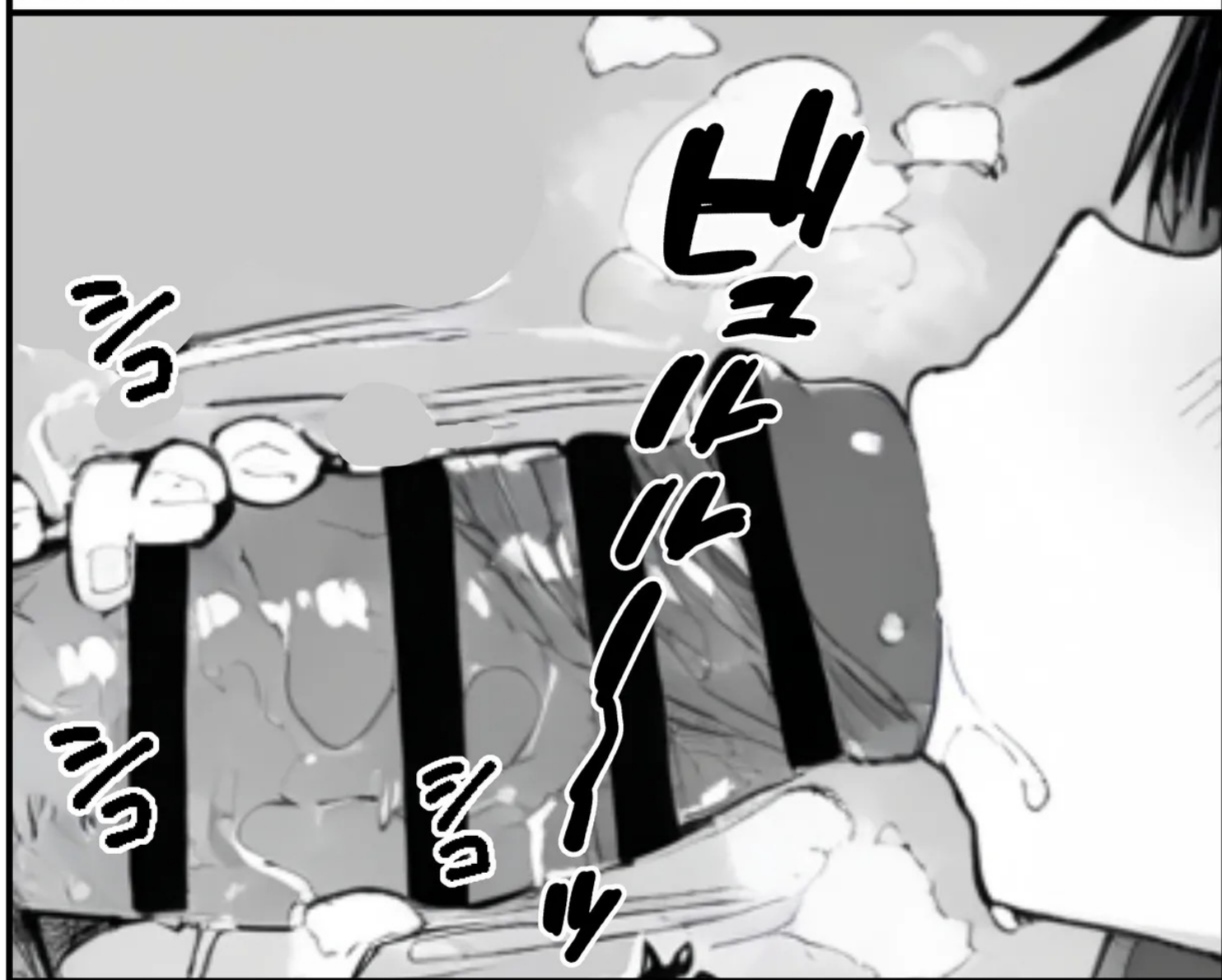
はい♡
×××さん

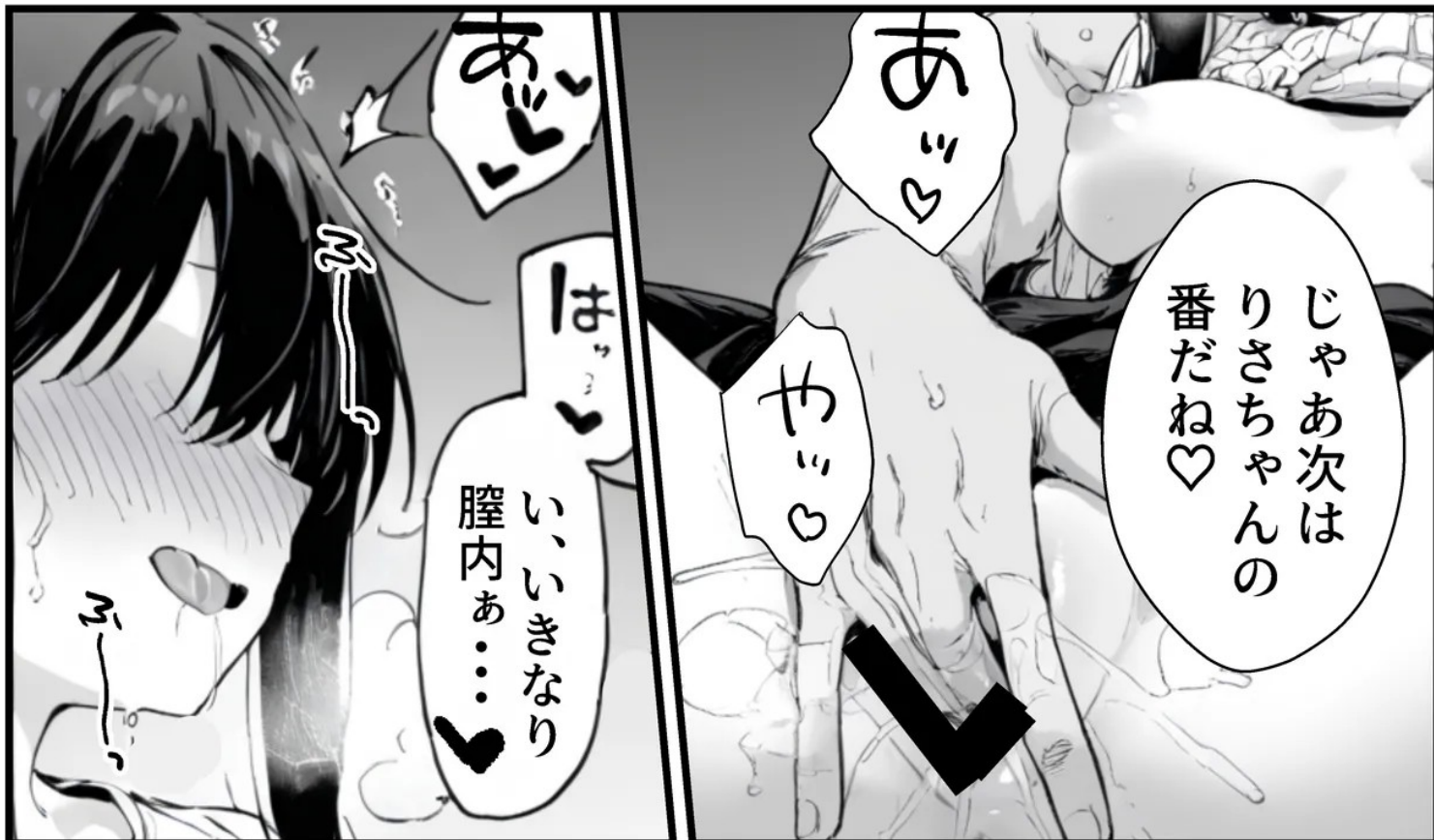
し、
お汁が
溢れてるよ？













ああ・・・♡
気持ちいい♡
ヒカル・・・ごめんね

いしゅ

んん♡

ん♡

ん♡

クク

イッ

イッ

イッ

イッ

イッ

私がこうなって
しまったのは…

お母さんの
再婚がきっかけ
でした



ずっと女手一つで
私を育てくれたお母さん
そんなお母さんが再婚する
ことになったの
反対なんかしなかった
大好きなお母さんが選んだ人だもん
私もきっとお義父さんを
好きになれると思ってた



美味しかった
ねー♪

お義父さんと
住み始めてから
半年が立った頃

その時期は
ヒカルに会えないときが
続いていて、
夜な夜な自分で自分を
慰めていたことが多かったの

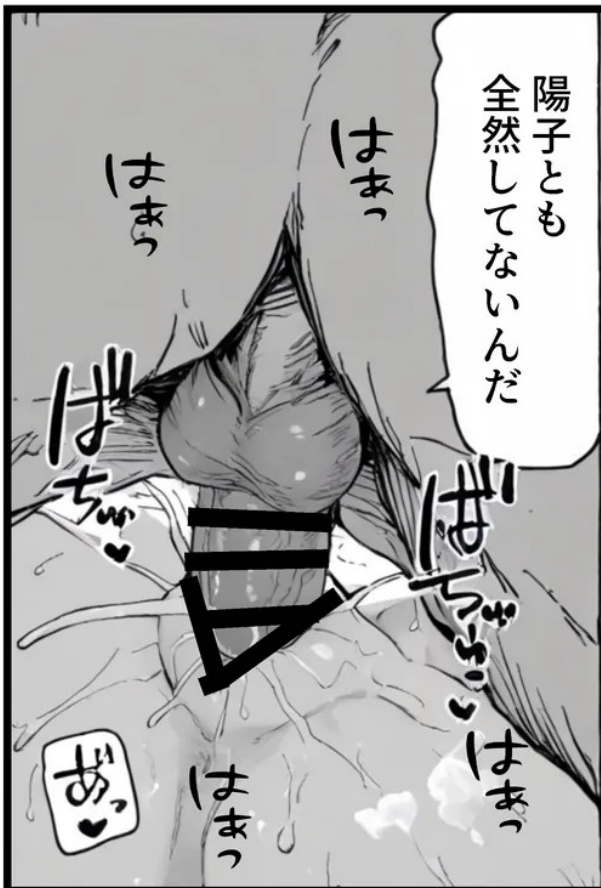
……りさ
ちゃん？

え？
お義父さん？

ザ
ザ
ザ
……



その日家族が壊れた







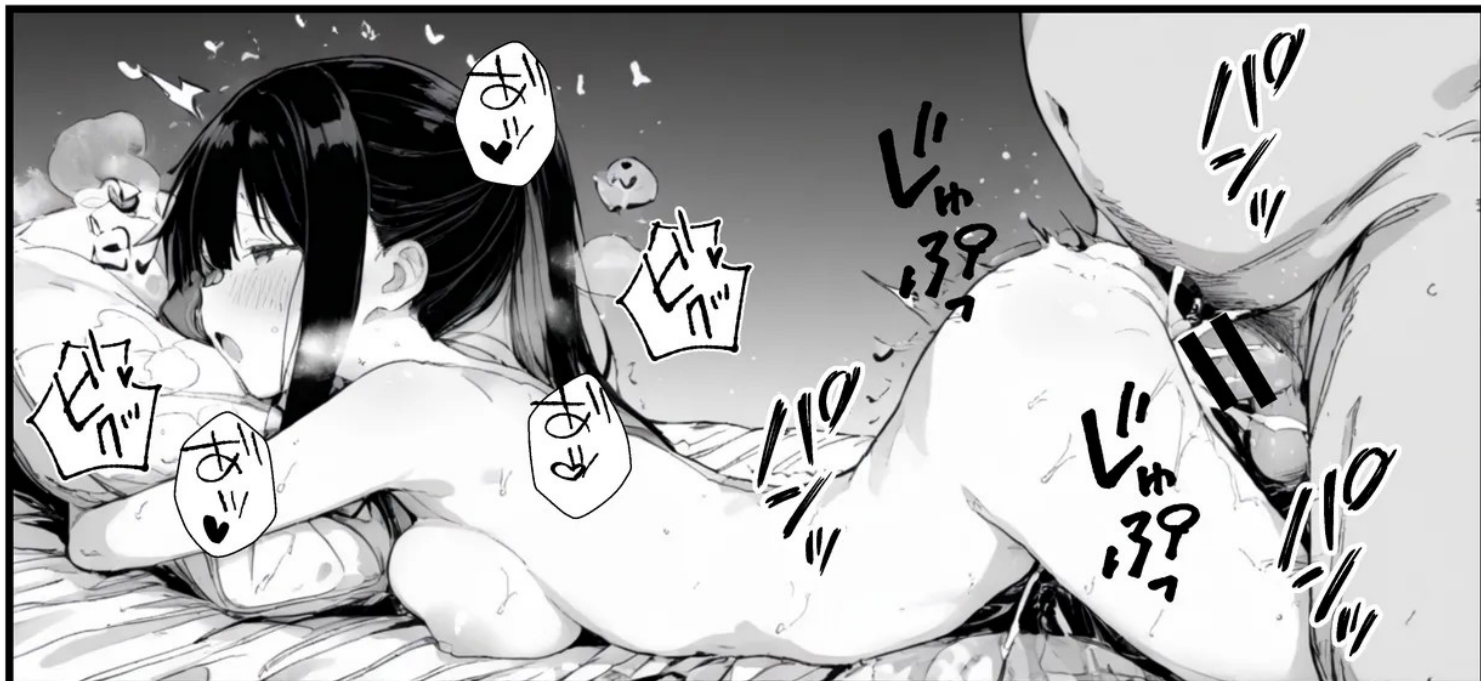
その日を境に
義父は私を何度も
抱くようになった

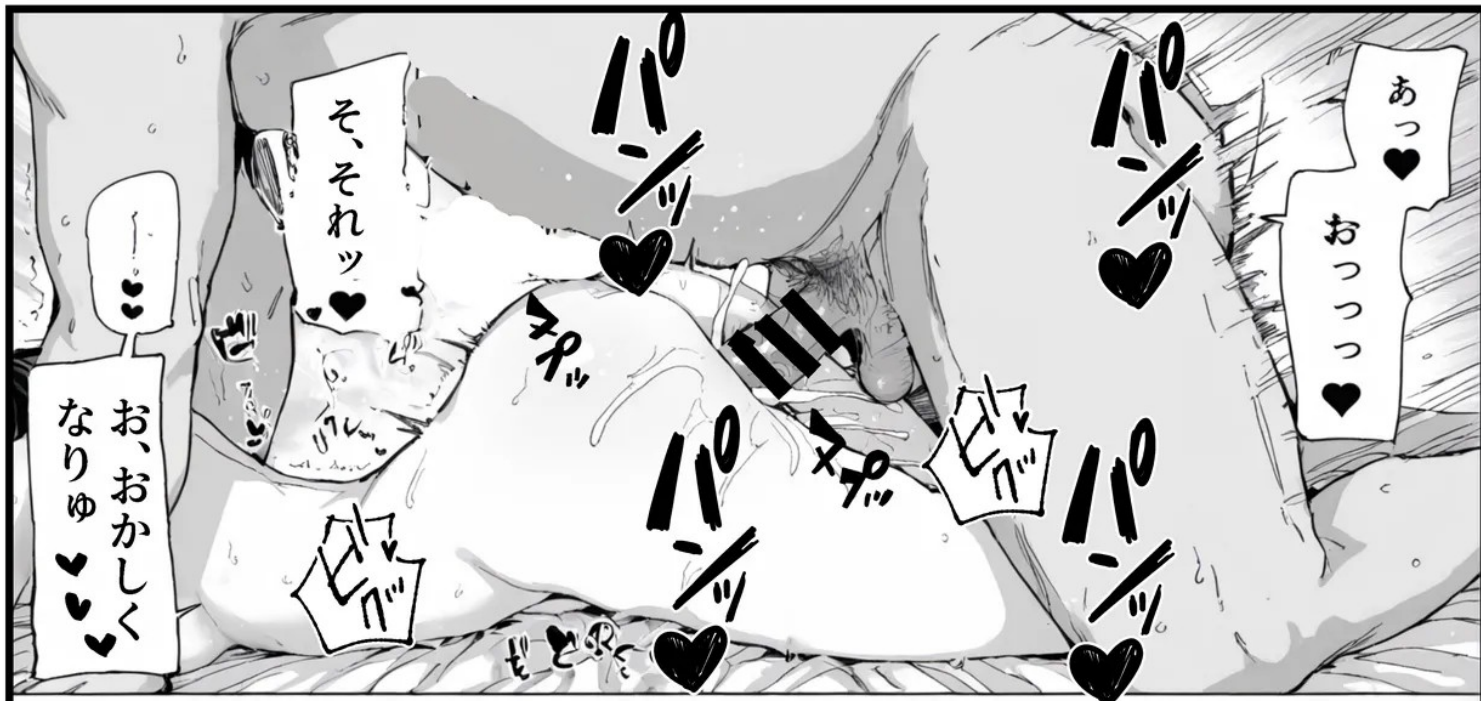
お母さんやヒカルに
バレたら困る私は
抵抗できずに抱かれ続けた

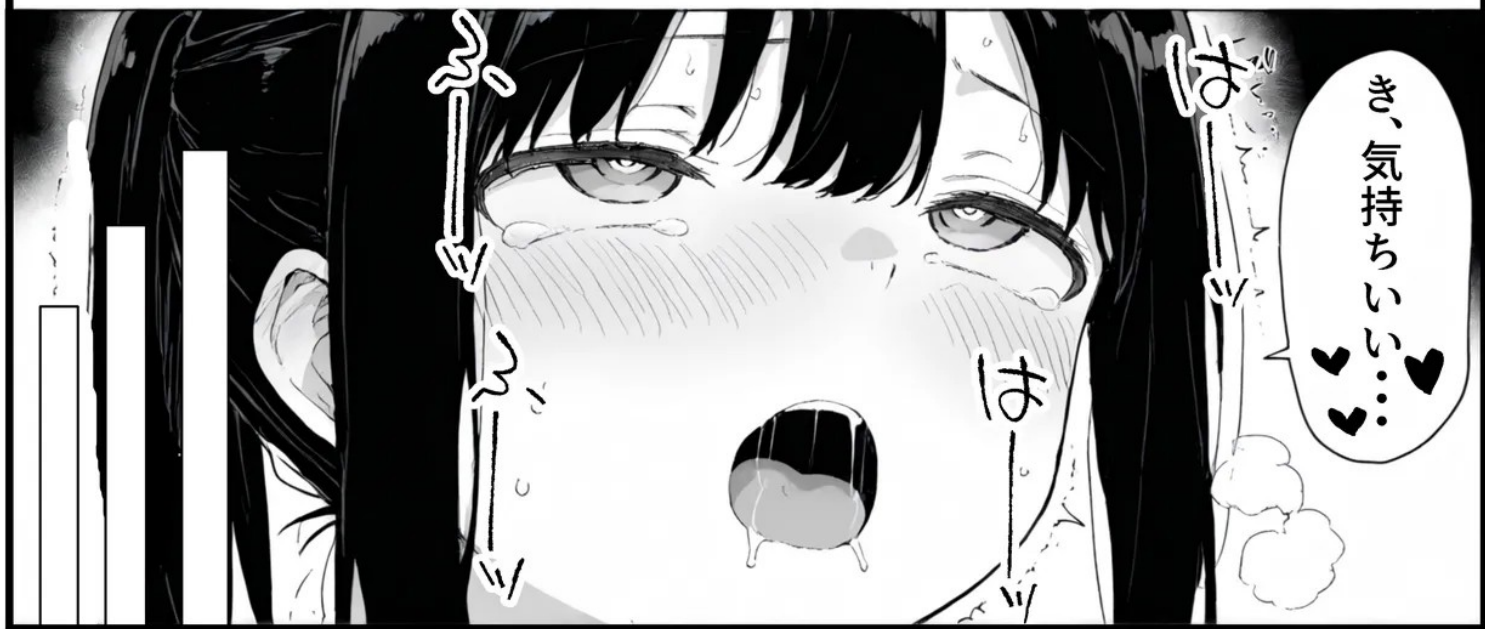














家にいると嫌な妄想ばかりしてしまい
居ても立っても居られなくなった俺は
気分転換がてら街に来ていた



あれから3日
りさと連絡がつかない



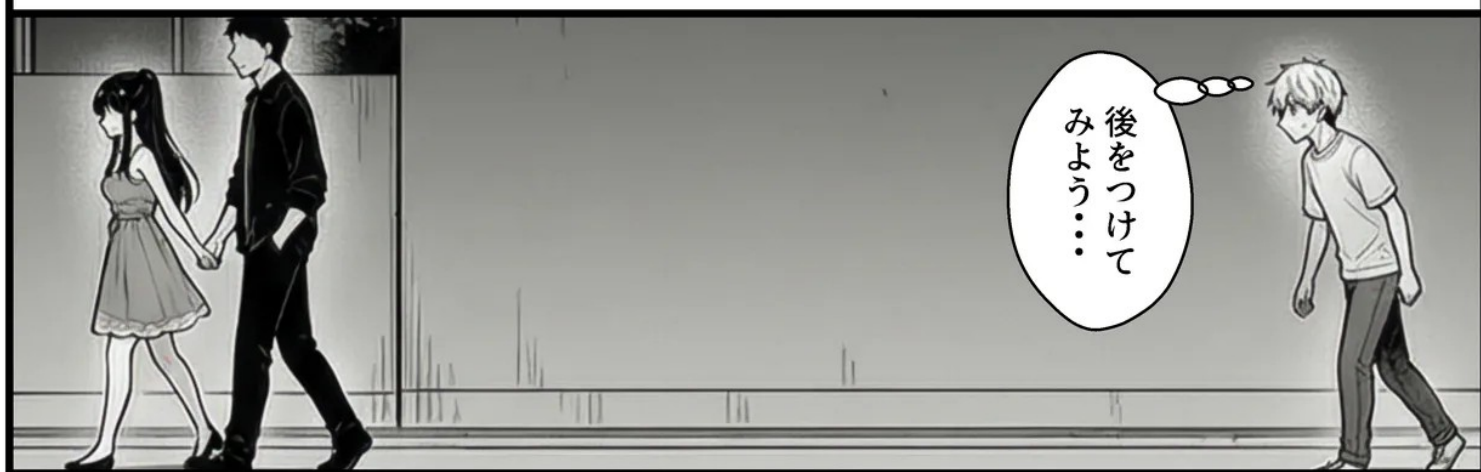
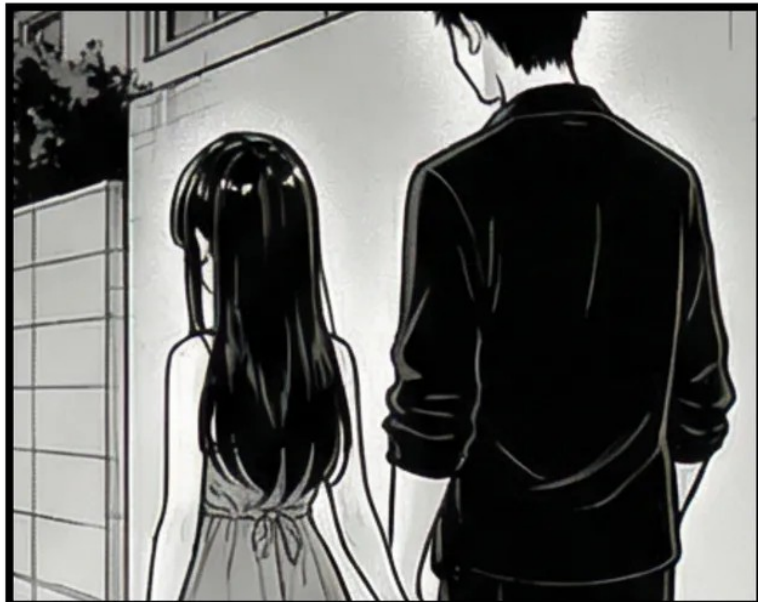
そして俺はそこで
りさの様子がおかしくなった
理由を知った

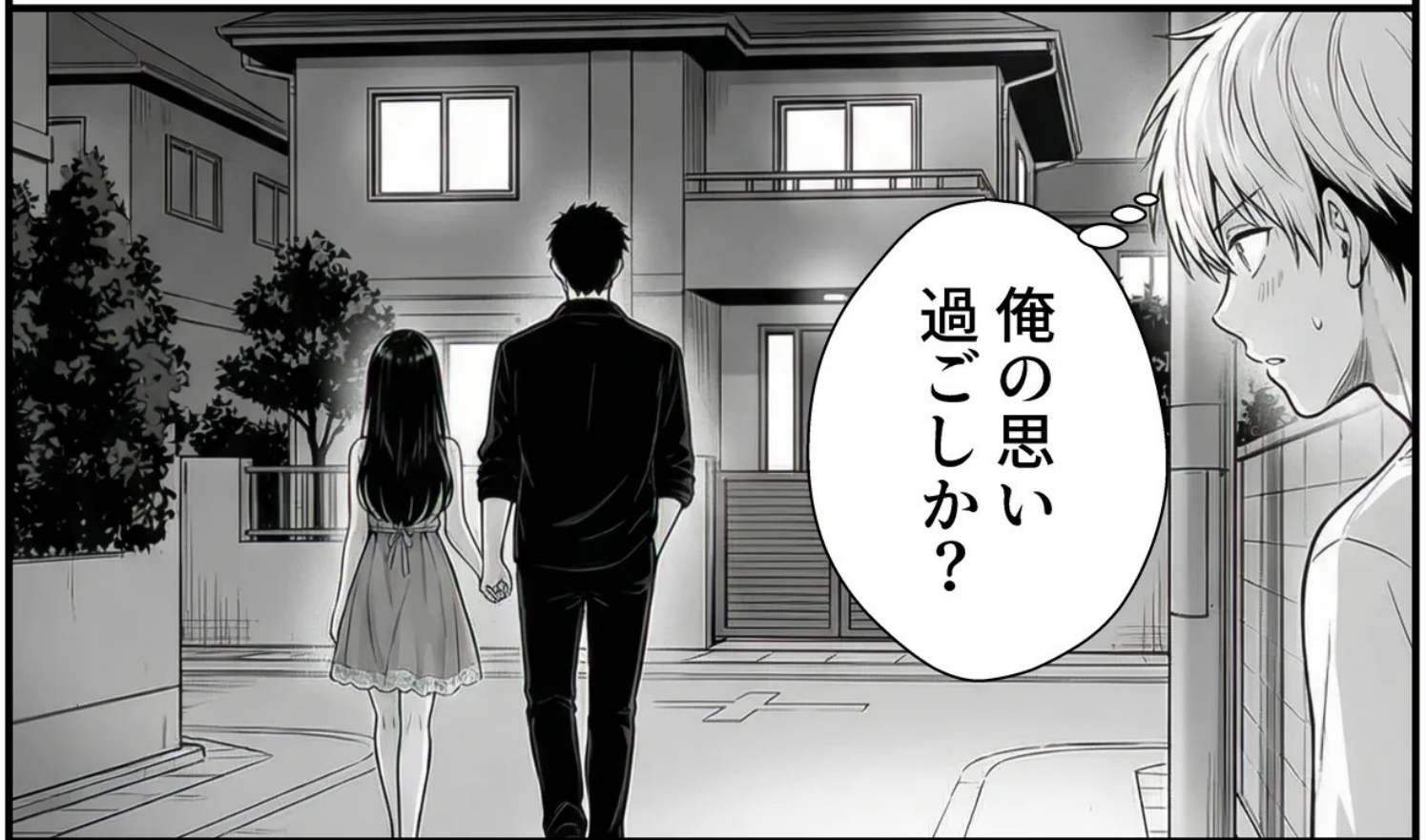




り、りさ!?
隣の男は誰だ!?
しかも、あんな格好…









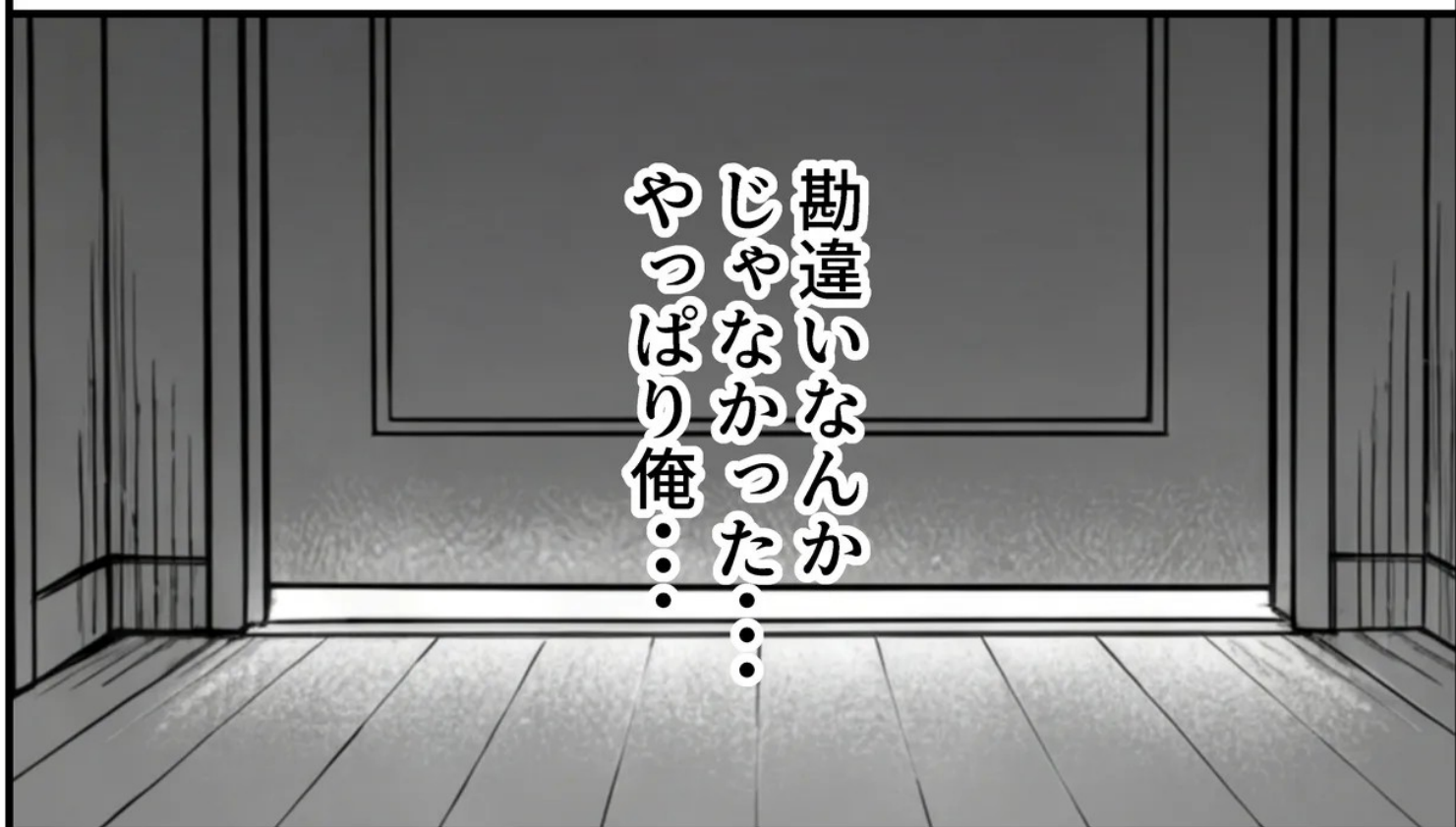


ははっ
そうかよ……

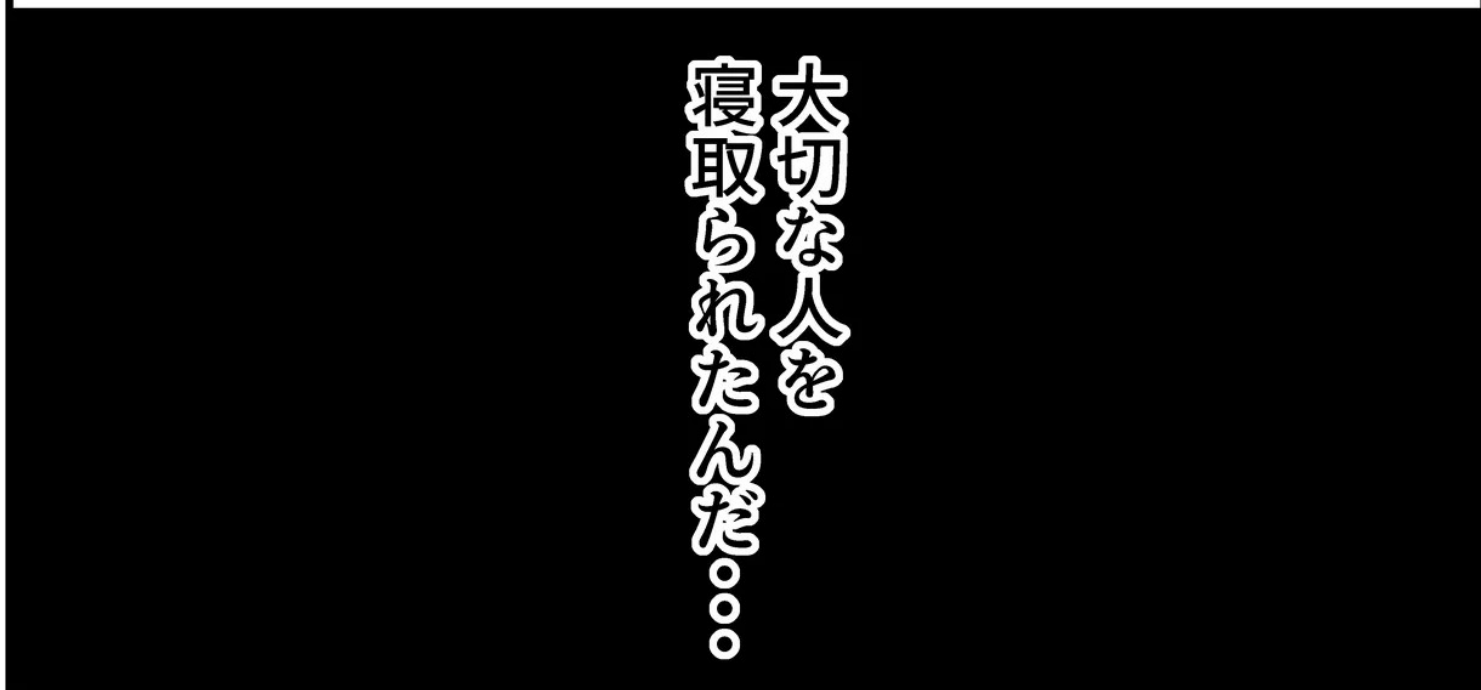


コッ

コッ



勘違いなんか
じゃなかった……
やっぱり俺……



大切な人を
寝取られたんだ……



だらしない顔
になってるぞ

りさちゃん♡

お♡

ほ♡

♡

だ、だって...

弱いところ
いっぱい弄るから...

指も3本
入るようにな
っちゃったね

どこら辺が
いいの？

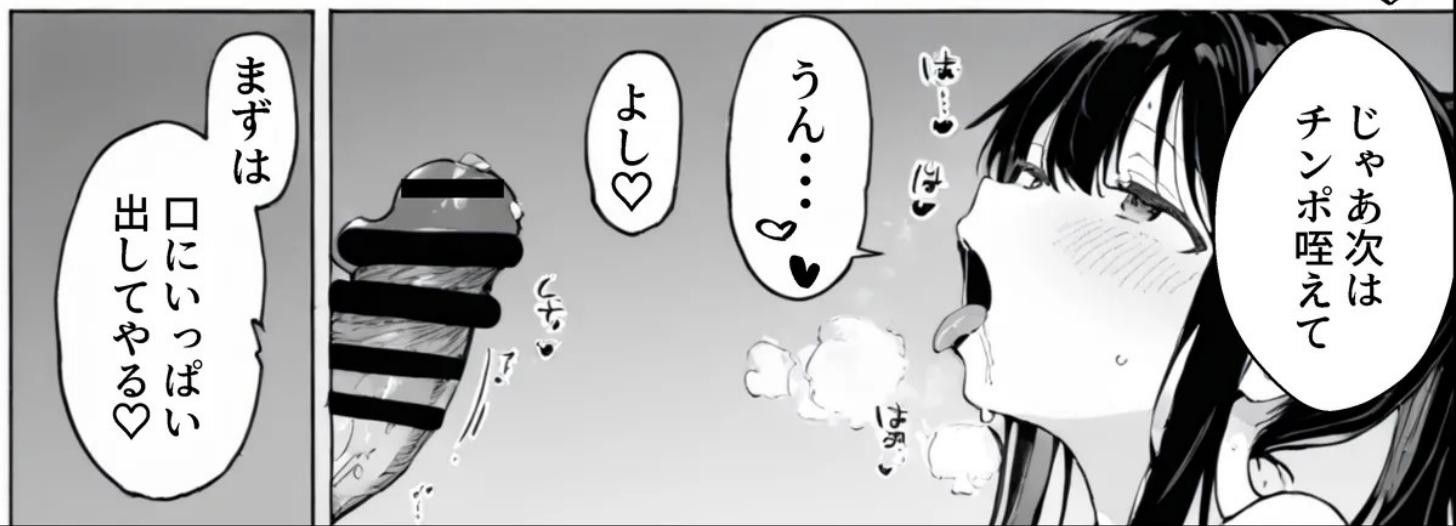
お♡

は♡

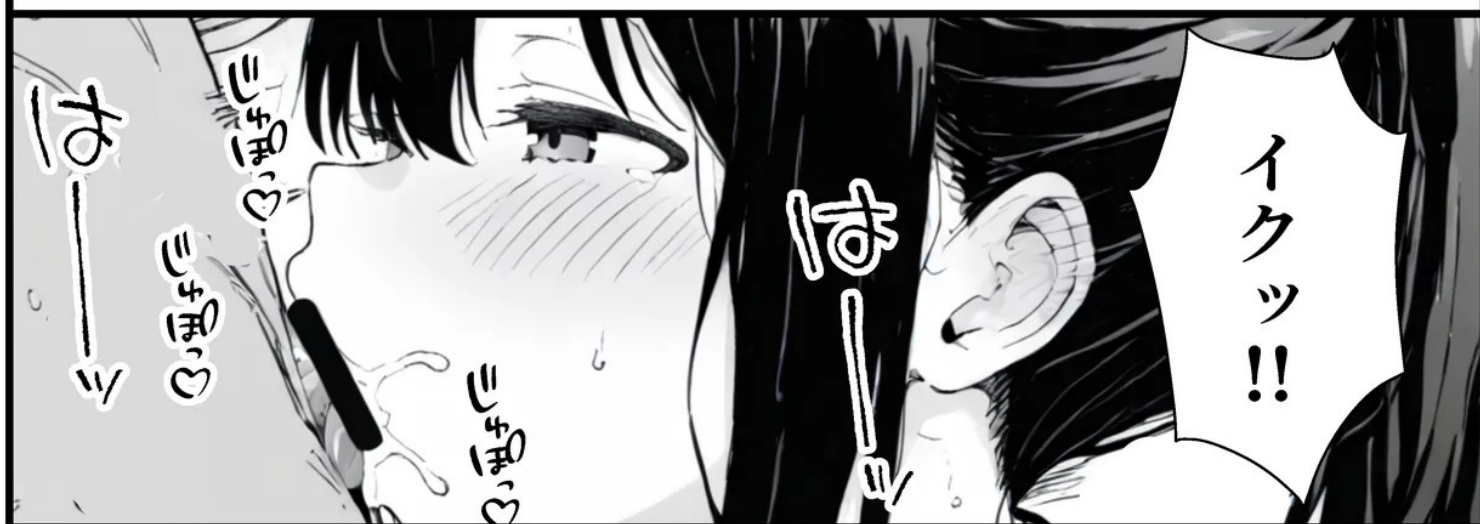
ほ♡

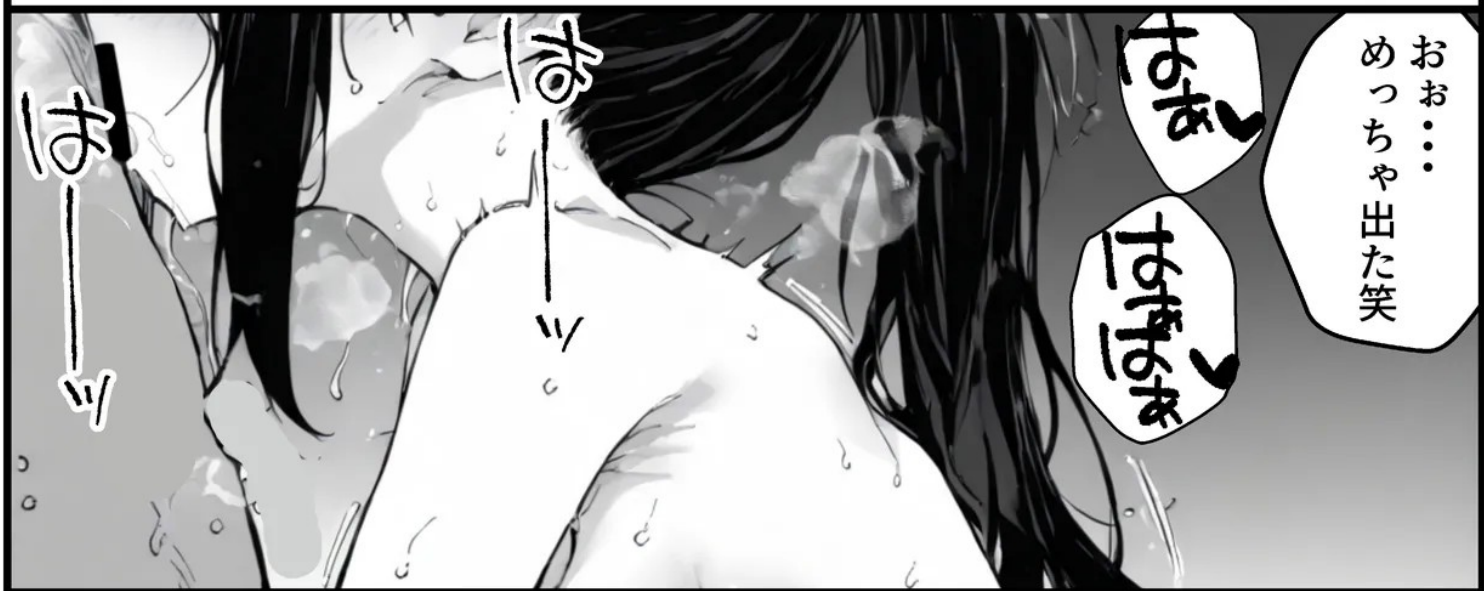
上のとこ...
もっと擦って♡

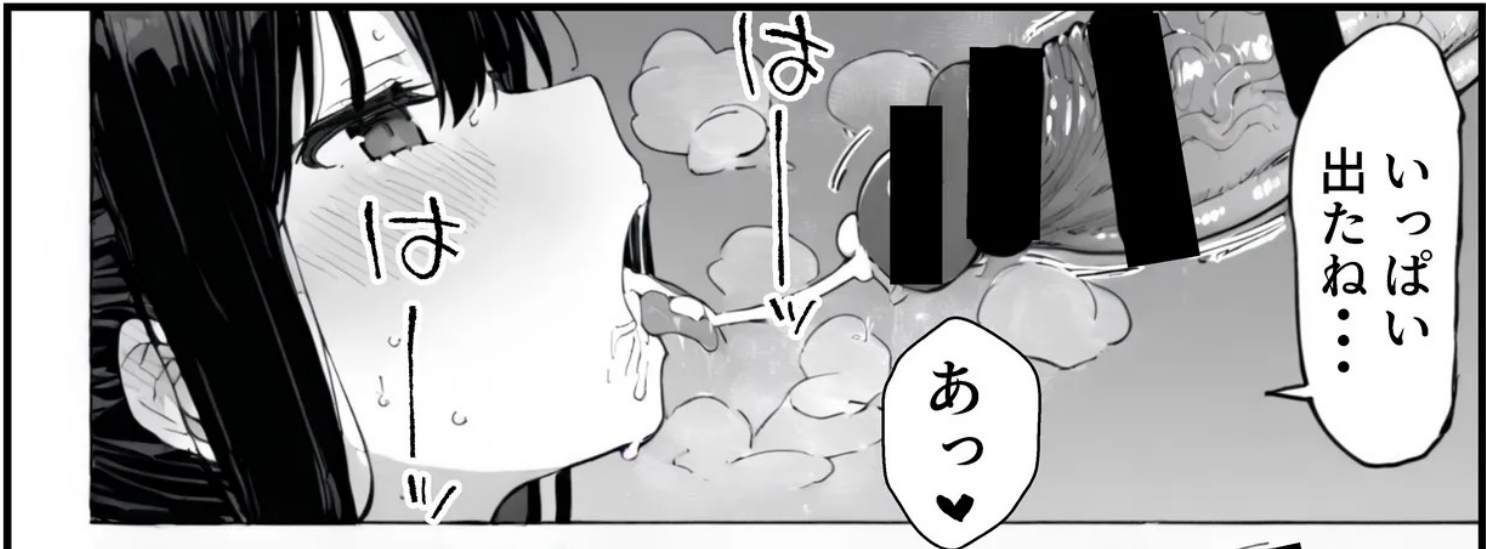
お♡

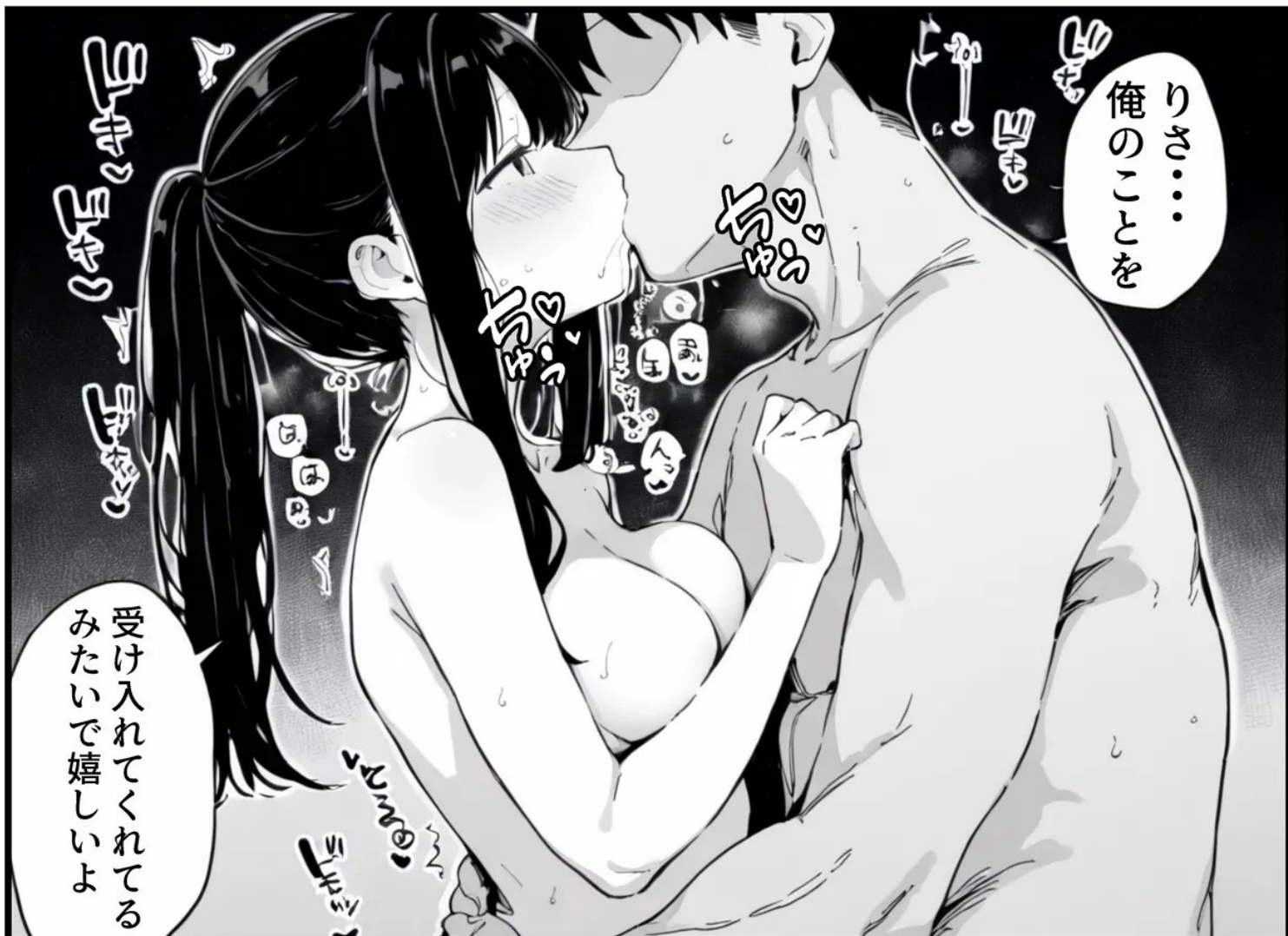














頭の中・・・
真っ白になって
ただただ快樂優先に
になっちゃうの・・・

だから・・・

お義父さんのアソコで
ココいっぱい
気持ちよくして・・・

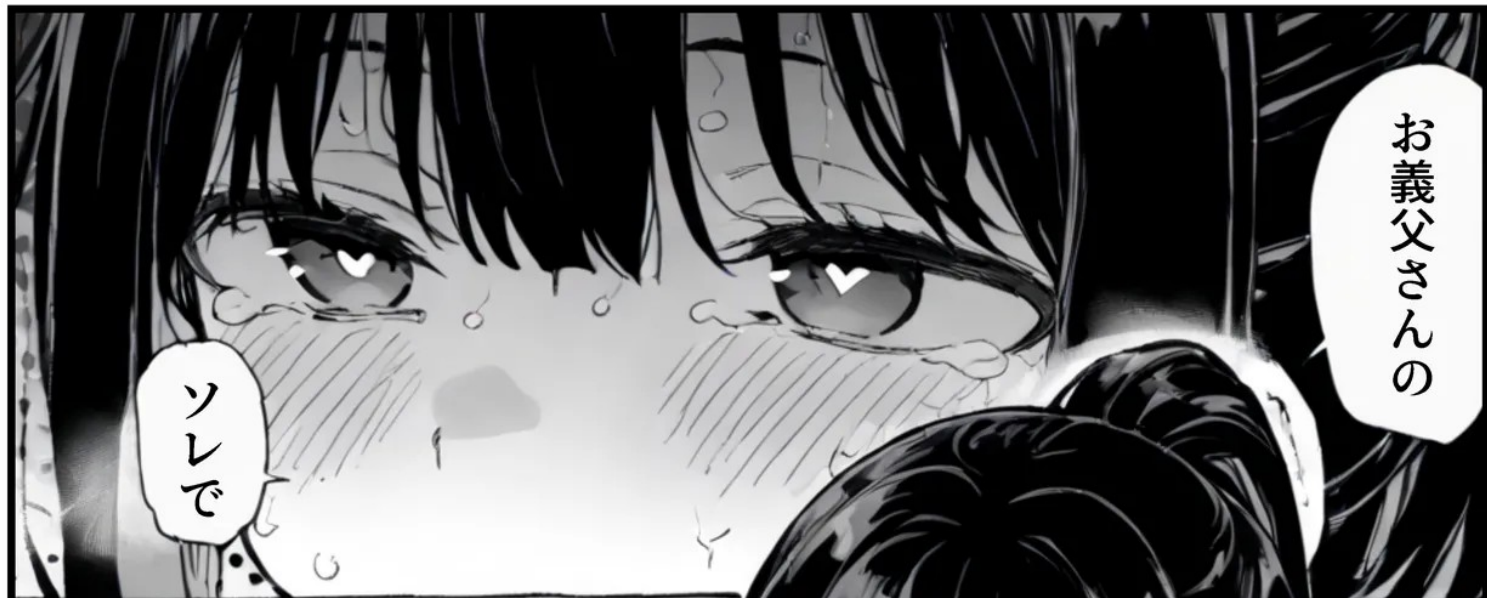


これを入れられたら
私もう・・・
戻れないかも・・・

りさ・・・
いっぱい一緒に
気持ちよく
なろうな♡

きて・・・

あ・・・



お義父さんの

ソレで



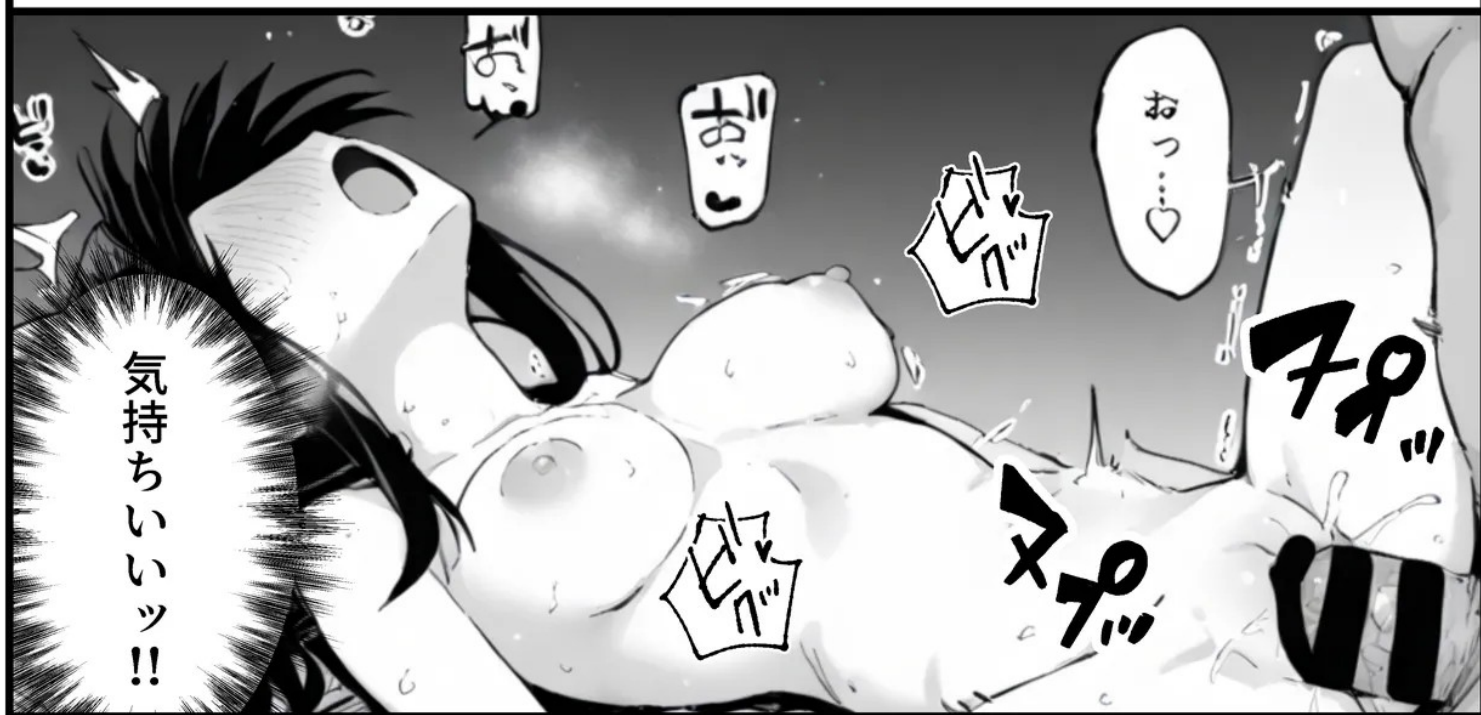
ほっ

ほっ

ほっ

いっぱい
犯してください♡

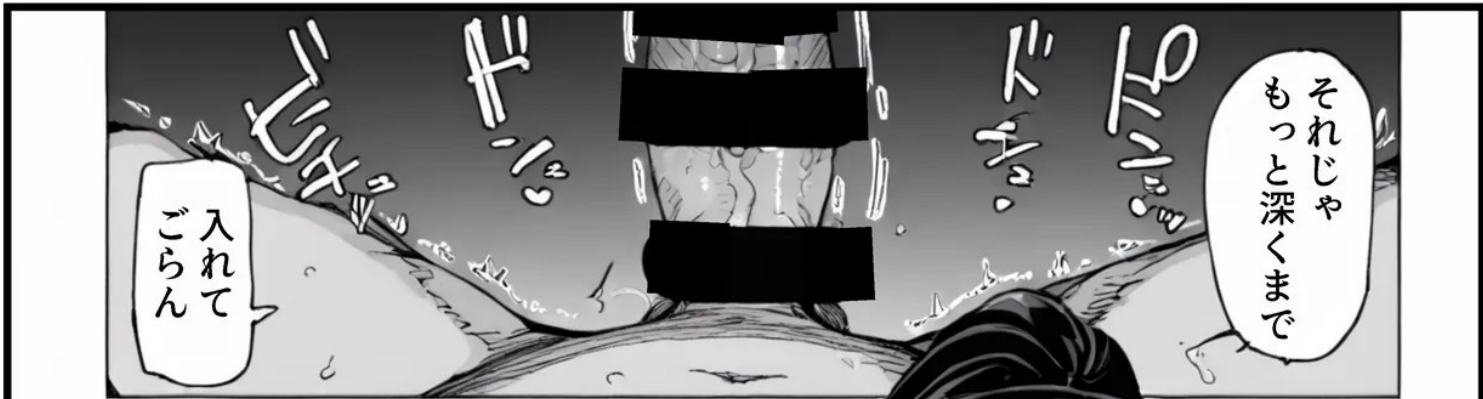
ぐわん











それじゃ
もっと深くまで

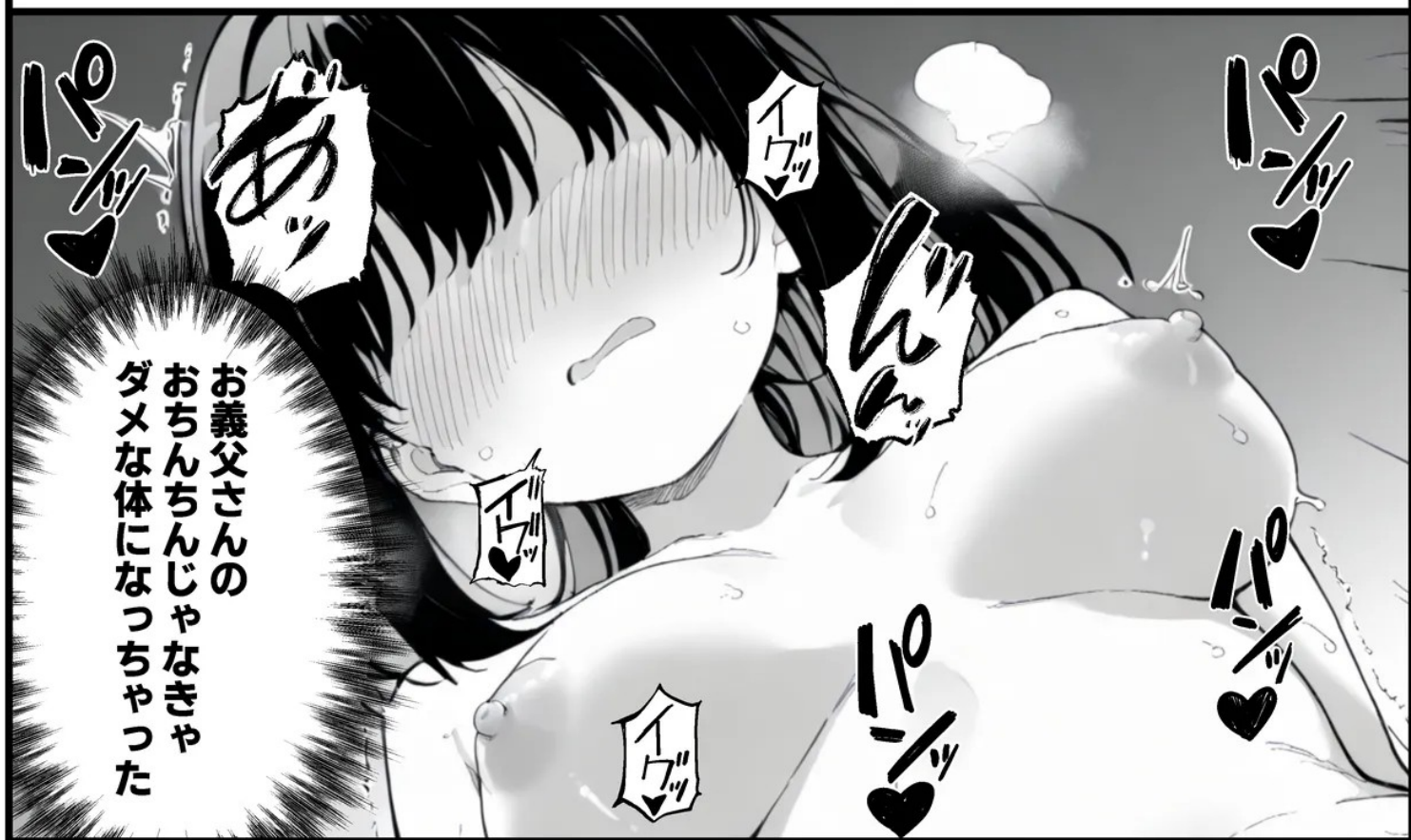
入れて
ごらん

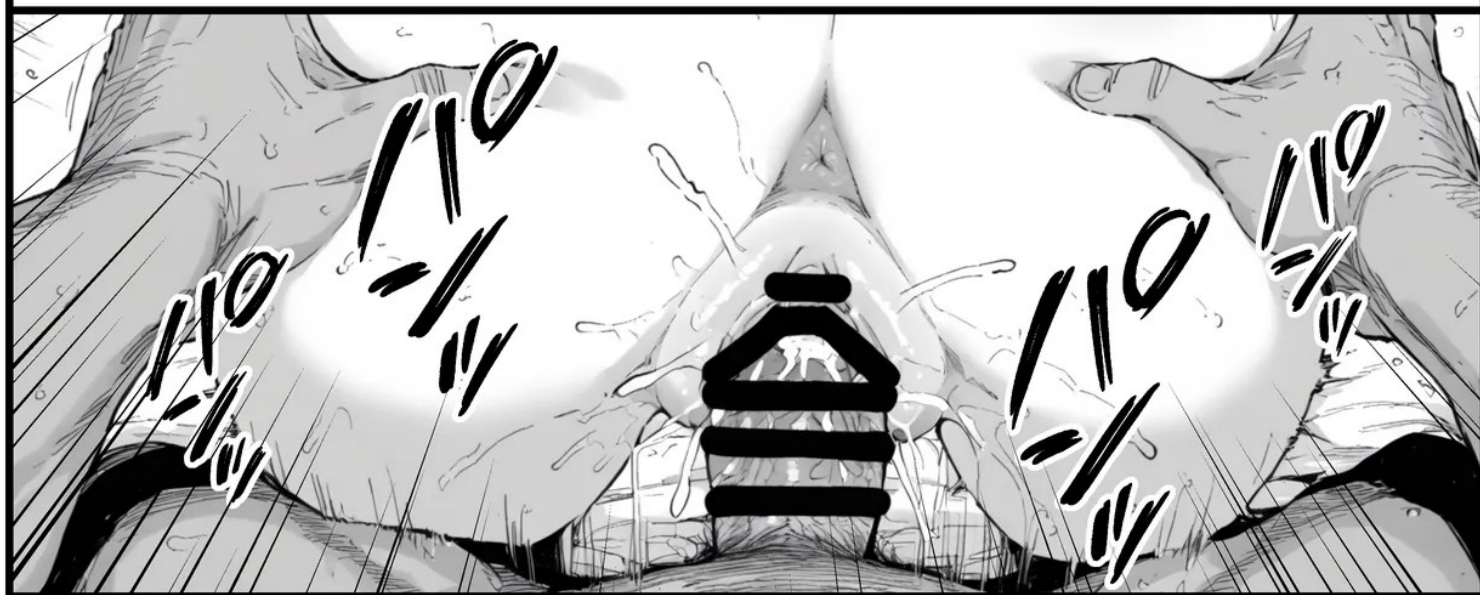


ああッ…
ここ…この奥の
コリコリ…したところ…

すーっ…く…
き、気持ちよくて…
も…もうっ…











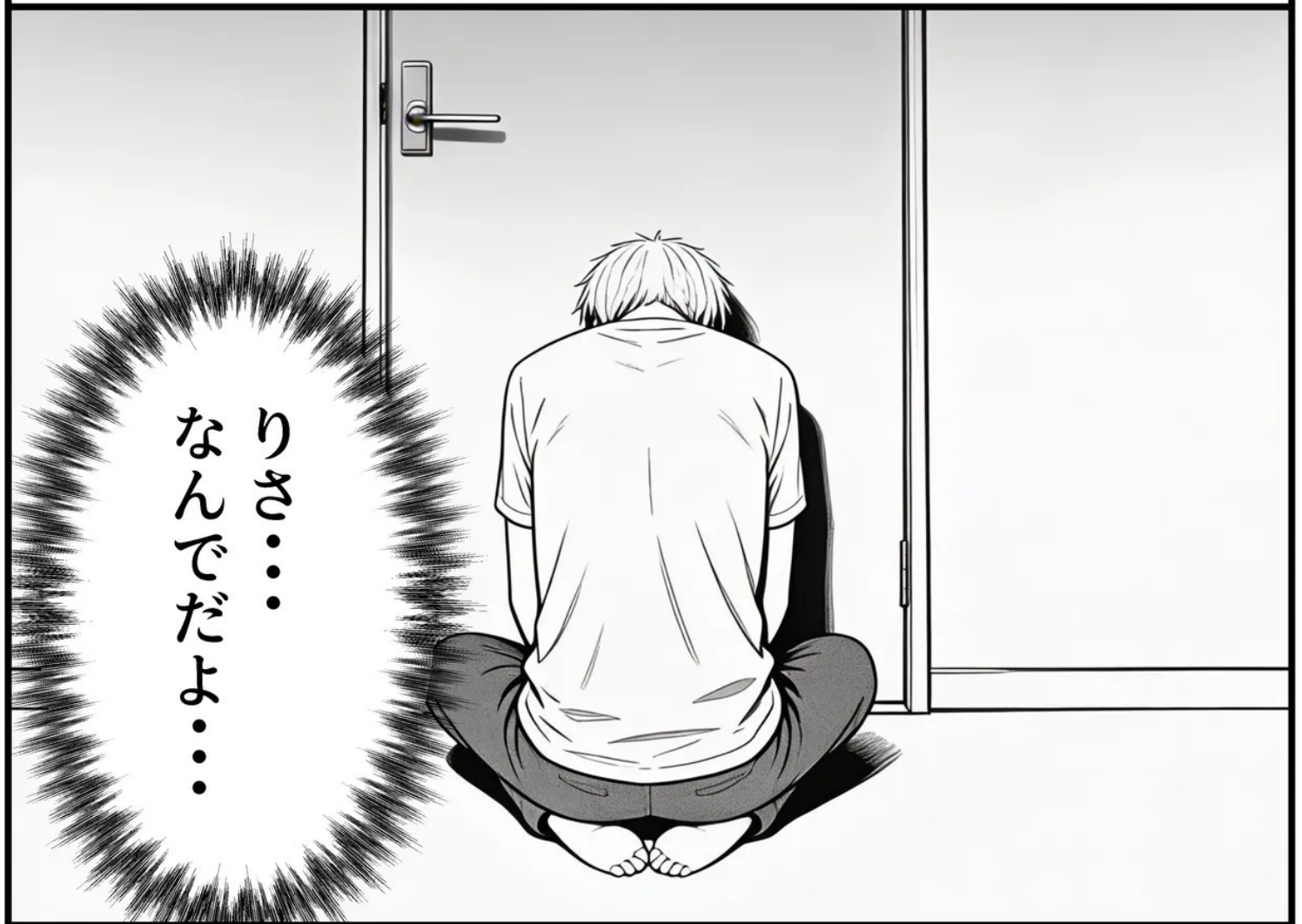
んおあ

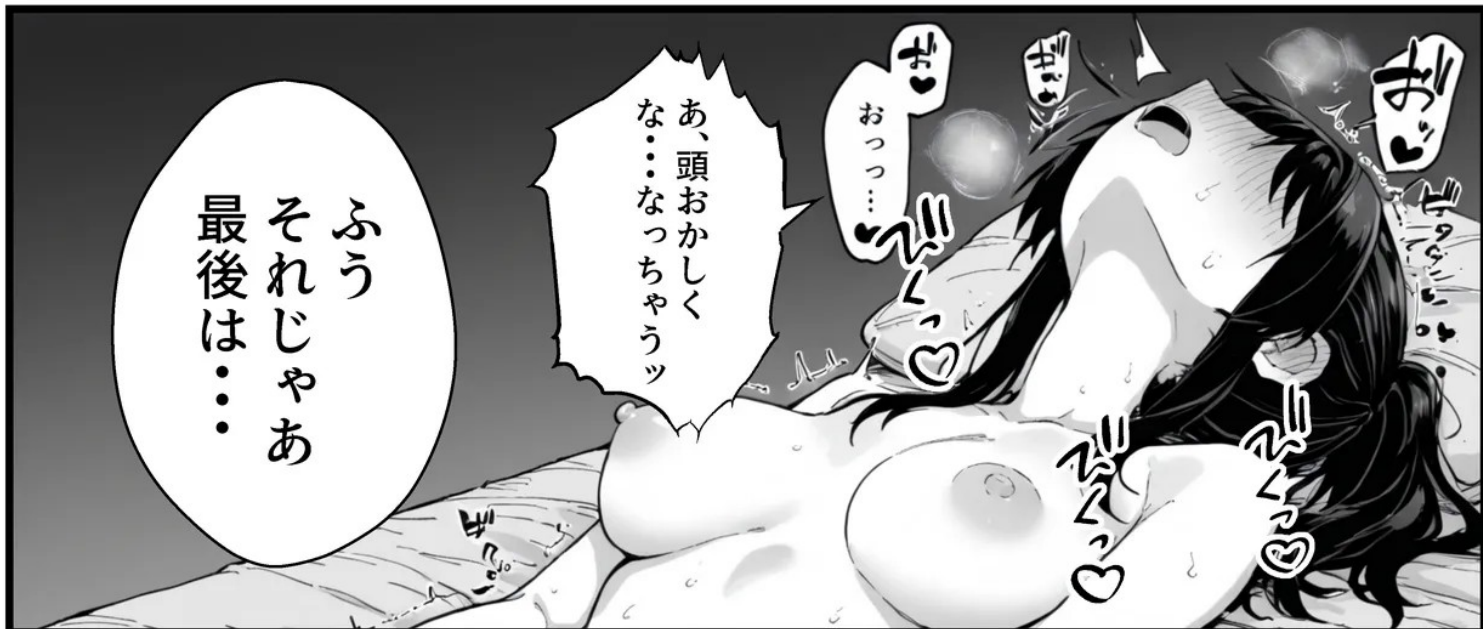
おっ

おお...締まるう♡
精子全部絞り
取られちゃうな笑

おまんこ
おかだこ
されて♡♡♡

ん







あれ？
私…

意識
飛んで…？



気絶しちゃう
くらいココが
気持ちいいんだな♡



子宮が降りてきてる
から簡単にポルチオを
刺激できちゃうぞ♡

んおあ

ポルチオ
気持ちいい？

おっ…♡

おっ♡

おっ♡

き、気持ち…ち
…いいッ…!!

そこ…
もっとお!!

ははッ
すっかり
気にいったな

奥…くりゅ
くりゅ…
ヤバッ…い…!!

楽屋ちゃんっ

おっ♡

おっ♡

おっ♡

おっ♡

おっ♡

おっ♡

おっ♡







こ…こん
なの…

知らな…
イツ…

ふうー
めちやくちや
出たあ♡

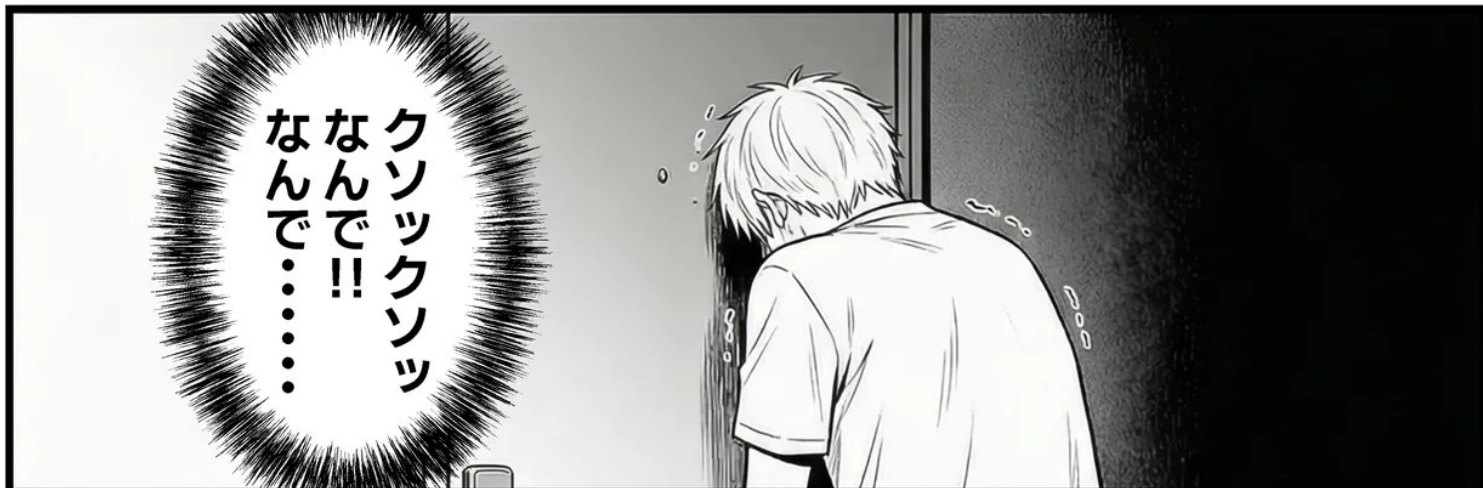


りさ
ありがとな♡

うりがすづつっ
すとおっつっ♡♡♡

って…
聞こえてないか笑



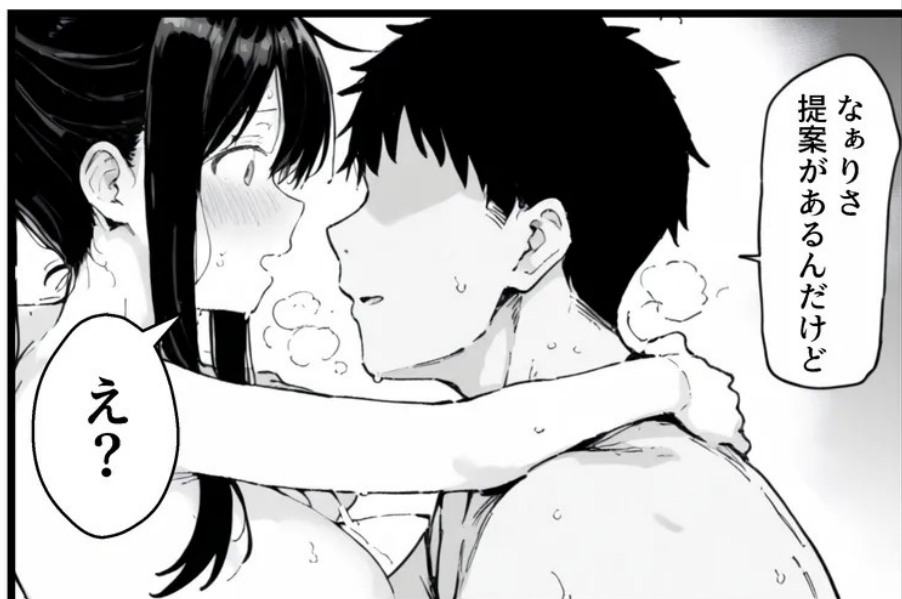




りさ…
どうだった？

すっごく
気持ち良かった…

…うん







俺たちがお前に
真の快楽を・・・
教えてやる

その後
りさとの連絡は
完全に途絶えた

だけど
まさか、あんな形で
再会することになるなんて
この時の俺は想像もして
いなかった……

To Be Continued...